惹かれるのは17世紀のジャポニズム。異文化同士が出会った時の面白さ。

PROFILE

コピーライター、「SOUL WORK」主宰デザイナーの古野雅子サン。トレードマークにもなっているオーグリーで購入したメガネに合わせて、手作りしたイヤリング。ここにも彼女独特のセンスが現れている。

異文化が出会った時に生まれる何か。どこにも属さない空気が新しい。

コピーライターと自ブランド「ソウル・ワーク」の主催デザイナー、二つの顔を持ち多才ぶりを発揮する古野雅子サン。着物地を素材として扱うなど、そのデザインにも現れているように、異文化の素材が出会うことによって生まれるそれまで以上の何か、に惹かれているという彼女。

「だから19世紀くらいのいわゆるジャポニズムと言われていたころのモードは特に好きですね。初めて出会った文化同士が出会ったことで生まれる面白さとかけったいさがいいですね。それから日本の明治の頃のものとか。西洋文明に会ったばかりで、なんとかなじもうとしているぎこちなさが味があり好きです(笑)。」

これからも日本の良さを認めながら、常に新しいものを作り出していきたいと語る彼女の、その「日本好きの外国人(笑)」に通じるセンスに注目。

アクセサリーは手作りしてしまうことが多い。彼女独特のセンスで作られたそれは本当に彼女に似合う。写真はお気に入りの時計と「ソウル・ワーク」の服が置いてある木屋町のトランク・メアリーで購入したリング。

素材は本物にこだわる古野サンお気に入りの曲げもののカップ。はめているリングは、子供の頃母上に作ってもらったもの。気に入ったものは長く使うほう、という。

コピーライターをしながら大阪のモード学園の夜間に通って一年後、「SOUL WORK」を設立。「デザイナーはモリゾウともう一人オーストラリア出身のクラブファッション・デザイナー、トロイ・オジャースも加わりパワーアップ」だという。現在はコスチューム・デザインがメインになってきているとのこと。

1/21にはメトロで「JAP MODE」を企画。「どの国の空気にも属さない新しいモードを、瞑、博子、ヘアメイクはなべ表現、さらに注目舞夜山あきら氏との共演でも有名な、ハイティ・G・ダーニング、メトロダイヤモントナイトでおなじみのピーター・コウフトリーといったゲストも参加。チャングルのジャンボ氏のオリジナル楽曲がB・G・M」ということで期待大。今後はより総合的に活動していきたいという彼女。

「少し高くても、長く付き合えて味が出てくる本物がいいから」と選んだ自宅のトチの木のテーブルで。

友人のカメラマン、中村一弘サンが取り下ろした関係で、自身も「詩」を執筆している、本木雅弘のヘア・ヌード後の写真集「HILL HEVEN」。テーマは天国。京都のイタリア会館にある「サンシャインカフェ」で見ることができる。

友人の母上からから譲り受けたという70年代の「エレガンス」。今見ても新鮮の一言。「デザインのいい刺激になります。」

SOUL WORKの新作。着物地を素材として扱い、ファスナーとプリーツを使い、ディティールに凝ったモダンな仕上がり。

和ぼい色合わせとアバンギャルドなシルエットが古野サンらしい帽子。

自宅玄関のディスプレイはこんな感じ。天神さんなどで見つけた味のあるアイテムが飾られている。

旦那が実はメトロなどで活躍中の「チャングル」のメンバー。「Kyoto Jazz Massive」としてコンピレーション・アルバムにも参加。ジャケット写真はあの伊島薫。

取材・文／端井由紀子★写真／武蹟育子